

- 問1 インド南部などの熱帯モンスーン気候における、気温と降水量の変化の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 赤道直下に位置するため一年中気温が高く、季節に関係なく毎日午後にはスコールが降り、乾季が見られない。 | 2. 一年を通じて気温が高く、モンスーンの影響で夏季に降水量が集中し、雨季と乾季がはっきりと分かれる。 | 3. 夏季は高温多湿だが冬季の寒暖差が大きく、季節風の影響で日本と同様に梅雨の時期にのみ降水が集中する。 | 4. 一年を通じて気温が高いが、ヒマラヤ山脈に湿った空気が遮られる内陸部のため、年間降水量は極めて少ない。 |
|---|---|--|---|
- 問2 ある農産物の生産データにおいて、メキシコやペルーなどのアメリカ大陸の国々と比較した際、タイで約3300万トン、パキスタンで約1400万トンと、アジアの国々と圧倒的に多く生産されている特徴をもつ作物はどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|------|-------|-----------|
| 1. いも類 | 2. 米 | 3. 小麦 | 4. とうもろこし |
|--------|------|-------|-----------|
- 問3 東南アジアに位置する島国の中で、国民の約8割以上がキリスト教のカトリックを信仰している国があります。かつてスペインの植民地支配を受けた歴史を背景に持つ、この国の名称を答えなさい。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|-------|-----------|
| 1. フィリピン | 2. マレーシア | 3. タイ | 4. インドネシア |
|----------|----------|-------|-----------|
- 問4 東京を中心とした正距方位図法による世界地図において、東京から見て南西方向に位置するインドという国について、その宗教的特色を説明したものとして適切なものはどれか。なお、この国には大勢の人々が河川に入り、身を清めながら祈りを捧げる光景が見られる。 (2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 東南アジアに位置する多民族国家であり、メコン川流域で稲作を営みながら主に仏教を信仰している。 | 2. 西アジアから伝播したイスラム教が国教となっており、一日に五回の礼拝が義務付けられている。 | 3. 人口の約8割がヒンドゥー教を信仰しており、牛を神聖な動物として大切にす文化がある。 | 4. 古くから仏教が盛んであったが、現在は欧米文化の影響を強く受け、キリスト教徒が人口の過半数を占める。 |
|---|---|--|--|
- 問5 東南アジアに位置し、赤道直下の多くの島々からなるインドネシアでは、近年、急速な開発にともない貴重な熱帯雨林が減少していることが国際的な課題となっています。この開発の主な目的となっている農産資源として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------|
| 1. 衣料品の原料となる乾燥帯での綿花 | 2. 加工食品や洗剤の原料となる油やし (パーム油) | 3. パンや麺類の原料となる広大な農地での小麦 | 4. 地中海沿岸で広く栽培されるオリーブ |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------|
- 問6 1970年には約8億人であった人口が、2015年には約14億人まで急増した中国において、人口爆発を抑制するために1979年から実施された人口抑制策の名称として正しいものを選びなさい。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-------------|
| 1. 産めよ増やせよ政策 | 2. 一人っ子政策 | 3. 二人っ子政策 | 4. 人口集中緩和政策 |
|--------------|-----------|-----------|-------------|
- 問7 東南アジア諸国連合 (ASEAN) 加盟国における、近年の産業の変化について説明した文として、適切なものはどれですか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 石炭や鉄鉱石などの豊富な鉱物資源の輸出に頼り、製造業の育成には消極的である。 | 2. 農業中心の産業構造を維持し続けており、現在も輸出額のほとんどを農産物が占めている。 | 3. 重工業から知識集約型の情報通信産業へ移行するため、周辺の先進国との貿易を制限している。 | 4. 安価な労働力を生かして外国企業を誘致し、衣類や電気機器などの工業化を急速に進めてきた。 |
|---|--|--|--|
- 問8 ロシア、サウジアラビア、アメリカ合衆国などが主な産出国となっている鉱産資源について、その特徴や歴史的背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 燃焼時の二酸化炭素排出量ほかの化石燃料に比べて極めて多いため、近年は世界的に利用が禁止されている。 | 2. 20世紀後半に石炭に代わって主要なエネルギー源となり、火力発電の燃料や自動車の動力などに多用されている。 | 3. 鉄鋼業の重要な原料として利用されており、主な産出国はオーストラリアやブラジルである。 | 4. 産業革命を支えた主要な動力源であり、主に古期造山帯の周辺で多く産出される固体の燃料である。 |
|--|---|---|--|
- 問9 中国では1980年代以降、経済の急速な発展に伴い、農村から都市へ働く場所を求めて多くの人々が移動しました。この結果、現在では60%を超える数値を示し、国の総人口に占める都市居住者の割合を指す指標として適切なものはどれですか。 (2024年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|---------|--------|
| 1. 死亡率 | 2. 都市人口率 | 3. 人口密度 | 4. 出生率 |
|--------|----------|---------|--------|
- 問10 タイの輸出統計において、1980年から2019年にかけて見られる輸出品目の変化の説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 木材やパルプなどの森林資源中心から、半導体やコンピュータなどのハイテク製品のみへと特化した | 2. 米や天然ゴムなどの一次産品中心から、自動車や機械類などの工業製品中心へと変化した | 3. 鉄鋼や石炭などの重化学工業製品中心から、コーヒーやバナナなどの農産物中心へと変化した | 4. 衣類や履物などの軽工業品中心から、原油や天然ガスなどの資源中心へと変化した |
|--|---|---|--|
- 問11 ネパールの通貨単位はネパール・ルピーです。外国為替市場において、1ドルあたりの交換比率が132.7ルピーから100ルピーへと変動したとき、この状況を説明する言葉として適切なものはどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1. インフレーション | 2. ルピー安・ドル高 | 3. ルピー高・ドル安 | 4. デフレーション |
|-------------|-------------|-------------|------------|
- 問12 1980年代初頭と2010年代前半のタイやマレーシアの輸出統計を比較すると、輸出総額が著しく増加していることがわかります。この期間に生じた輸出品目の構成の変化について述べたものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 輸出の中心が工業製品から農産物へと回帰し、食料輸出に依存するモノカルチャー経済となった。 | 2. 原油や錫などの鉱産物の輸出に特化し、特定の天然資源への依存度がさらに高まった。 | 3. 経済発展に伴う国内需要の拡大により、輸出総額は1980年代と比較して大幅に減少した。 | 4. 米や天然ゴムなどの農産物から、自動車や電子機器などの工業製品へと中心が移った。 |
|---|--|---|--|
- 問13 日本への輸出額がEUへの輸出額を上回っている東南アジアの国、インドネシアの宗教的・地理的背景について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 1. 仏教徒が人口の大部分を占め、日本へは主に米を輸出している | 2. 日本よりもヨーロッパ諸国との貿易額が常に大きい内陸国である | 3. 世界最大のイスラム教徒人口を抱える島国である | 4. 国民の約9割がキリスト教を信仰する多民族国家である |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------|------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 一年を通じて気温が高く、モンスーンの影響で夏季に降水量が集中し、雨季と乾季がはっきりと分かれる。	熱帯モンスーン気候の最大の特徴は、年間の気温変化が小さく常に高温であることと、モンスーンによって降水量が劇的に変化する点にあります。5月から10月にかけての夏季は、インド洋から吹き込む湿った南西モンスーンの影響で激しい雨（雨季）となりますが、それ以外の時期は乾燥した北東モンスーンの影響で降水が少ない乾季となります。これは、一年中雨が多い熱帯雨林気候や、乾燥が続く砂漠気候とは異なるアジア特有の自然環境です。
問2	答え 2 米	タイやパキスタンといったアジアの国々で生産量が著しく多い農産物は米です。アジアの多くの地域は降水量が多く温暖な気候であるため、米の栽培に適しています。
問3	答え 1 フィリピン	東南アジア諸国ではタイやミャンマーの仏教、インドネシアやマレーシアのイスラム教が主流ですが、フィリピンは16世紀から19世紀末までスペインの植民地であったため、キリスト教のカトリックが広く浸透しました。この宗教構成は、他の東南アジア諸国と比較して非常に特徴となっています。
問4	答え 3 人口の約8割がヒンドゥー教を信仰しており、牛を神聖な動物として大切にす文化がある。	インドはヒンドゥー教徒が多数を占める国であり、宗教的な理由から牛を神聖視し、牛肉を食べないなどの独特な食文化や習慣が存在する。設問にある「河川に入り身を清める光景」はガンジス川における沐浴を指しており、これはヒンドゥー教の重要な儀礼の一つである。仏教はインドで誕生したが、現在のインドにおける信仰の主流はヒンドゥー教である。
問5	答え 2 加工食品や洗剤の原料となる油やし（パーム油）	インドネシアやマレーシアでは、世界的な需要が高まっているパーム油を生産するため、油やしのプランテーション（大規模農園）の開発が優先されてきました。この開発のために広大な熱帯雨林が伐採されたり、泥炭地が乾燥させられたりしており、生物多様性の喪失や二酸化炭素の排出が大きな問題となっています。
問6	答え 2 一人っ子政策	中国では急激な人口の増加が経済発展の妨げになることを懸念し、1979年から「一組の夫婦につき子供は一人まで」とする強力な人口抑制策を導入しました。この政策により人口増加のスピードは抑えられましたが、現在は廃止され、逆に少子高齢化への対策が課題となっています。
問7	答え 4 安価な労働力を生かして外国企業を誘致し、衣類や電気機器などの工業化を急速に進めてきた。	ASEAN諸国は、1970年代以降、外国資本や技術を積極的に導入することで、従来の農業中心の経済から工業中心の経済へと大きく転換しました。特に、豊富な労働力を背景に衣類や電気機器の組み立てなどの輸出向け工業を発展させ、「世界の工場」の一部として重要な役割を果たしています。この経済発展により、域内での経済協力の重要性がさらに高まっています。
問8	答え 2 20世紀後半に石炭に代わって主要なエネルギー源となり、火力発電の燃料や自動車の動力などに多用されている。	この資源はロシアやサウジアラビアといった特定の地域に埋蔵が偏っているのが特徴です。1960年代のエネルギー革命によって、石炭に代わって世界の経済活動を支える中心的なエネルギー源となりました。また、エネルギーとしての利用だけでなく、衣服の繊維やプラスチック容器などの化学工業製品の原料としても欠かせない存在です。
問9	答え 2 都市人口率	中国では「改革開放」政策の進展により、沿岸部の都市を中心に工業化が加速しました。その結果、より高い賃金や雇用を求めて農村から都市へと大規模な人口移動が起こり、総人口に占める都市居住者の割合（都市人口率）が1980年代から一貫して上昇し続けています。
問10	答え 2 米や天然ゴムなどの一次産品中心から、自動車や機械類などの工業製品中心へと変化した	タイでは経済の発展に伴い、輸出の主軸が農業から製造業へとシフトしました。1980年代には米や天然ゴムの輸出が目立っていましたが、現在は「東洋のデトロイト」と呼ばれるほど自動車産業が盛んになり、機械類と並んで輸出額の多くを占めるようになっていきます。これにより、一次産品の価格変動に左右されにくい安定した経済成長を目指す構造へと転換しました。
問11	答え 3 ルピー高・ドル安	為替相場において、1ドルと交換するために必要なナパール・ルピーの額が減少（132.7ルピーから100ルピーへ）したということは、それだけルピーの価値がドルに対して相対的に高まったことを意味します。したがって、この変動は通貨価値の上昇を示す「ルピー高」であり、同時にドルの価値が相対的に下がった「ドル安」の状態を指します。
問12	答え 4 米や天然ゴムなどの農産物から、自動車や電子機器などの工業製品へと中心が移った。	タイやマレーシアは、1980年代以降、外国資本の積極的な受け入れや工業団地の整備を通じて急速な工業化を遂げました。かつては「世界の米びつ」と呼ばれたタイや、天然ゴム・錫の産地であったマレーシアですが、現在は自動車、家電、半導体などの製造・輸出が経済を支えています。このように、輸出品目が一次産品（農産物・鉱産物）から、より付加価値の高い工業製品へとシフトしたことで、輸出総額も劇的に増加しました。
問13	答え 3 世界最大のイスラム教徒人口を抱える島国である	インドネシアは東南アジア諸国連合（ASEAN）の主要メンバーであり、国民の8割以上がイスラム教を信仰しています。これは世界で最も多いイスラム教徒人口です。また、鉱物資源やエネルギー資源の輸出を通じて日本と深く関わっており、統計上も日本への輸出額がEU向けの輸出額を大きく上回る傾向にあります。フィリピンなどはキリスト教徒が多い島国ですが、インドネシアとは宗教構成が異なります。